



先進地紹介

空間を活かした美しいまちづくり

～埼玉県狭山市～

守谷市都市整備部都市計画課 主事 田嶋 浩太郎

平成27年10月15日より2日間、茨城県都市計画協会が主催する先進地視察に参加し、埼玉県狭山市を訪れました。ここでは狭山市駅西口周辺を要にした、市街地再開発事業におけるまちづくりの取り組みをご紹介します。

■狭山市の概要

狭山市は埼玉県南西部に位置する市で、東京から約40km県内に位置し、入間川流域にあります。人口は約15万3千人、道路交通網には国道16号や圏央道狭山日高ICが市内を走っており、鉄道交通網では西武新宿線と西武池袋線の2線4駅がある生活環境の整った都市です。

また、川越市にまたがる約247万㎡の川越・狭山工業団地や狭山工業団地が分布しており、埼玉県内有数の工業都市としても知られています。

■狭山市のまちづくり

狭山市では、狭山市駅西口地区市街地再開発事業をまちづくり全体の要としており、このスカイテラス地区を狭山市の「顔」として市の中枢拠点にふさわしい魅力ある景観を備えた、美しく快適な空間です。



狭山市全体の「顔」となるスカイテラスを含む狭山市駅西口

■狭山市駅西口地区の開発前の状況

駅前としての土地の有効な利用が図られておらず、駅前広場や幹線道路が整備されない状況が続いたため、不便さや交通上の問題が多く発生していました。敷地も細分化され、狭く入り組んだ道路には木造家屋の密集地帯もあり、防災上でも改善が求められていました。



【開発前の狭山市駅前】人や車、バスが錯綜し歩道も狭い

■スカイテラスとは

スカイテラスとは、特色ある斜面緑地を“魅力”として活用し、市民の日常の利便性に配慮した施設建築物と、駅と再開発事業地区を結ぶ空に架かる歩行者デッキにより構成されています。公募で決まったスカイテラスという愛称の通り、駅前広場の癒される緑地空間、広場を取り囲むような建築群の配置、それらを結ぶ軽やかな空中通路が、安全と景観を融合的に備えていることで、平成26年度に「都市景観大賞（都市空間部門）優秀賞」と「グッドデザイン賞」を受賞しています。

このスカイテラス地区には商業施設棟や、「狭山市市民交流センター」のような行政サービスの一部を受けられたり、市民活動による地域コミュニティ形成の場となる公共施設棟があります。多様なまちの機能を駅前に集約させることにより、駅前が単なる交通結節点にとどまらず、市民の生活拠点としてふさわしい空間となっています。



駅から左右の施設に伸びる安全で快適な歩行者デッキ





駅前には面積約7,400㎡の駅前広場と約4,000㎡の市民広場が整備されています

■狭山市市民交流センターの存在感

狭山市駅西口の再開発事業の中で、ひと際の存在感を発揮しているのが、駅から歩行者デッキで直結している「狭山市市民交流センター」です。

人を迎え入れる開かれた施設にふさわしく、広場に面してガラスの吹き抜け空間があるのがデザインの特徴です。このオープンな施設はその名前から、従来の公共施設を思い起こさせますが、有料で民間が運営する市民センター（ホールや音楽スタジオ）と自治体による中央公民館（調理実習室や和室）をそれぞれ内包しており、幅広い世代の市民活動・コミュニティ形成を促す施設となっています。

また、生涯学習情報コーナーや諸証明発行コーナーのような行政サービス機能や子育て支援センターも入っており、狭山市の「顔」として、駅前の利便性を大きく向上させる存在となっています。



駅の方を向いた大きな吹き抜け窓は従来の市民センターのイメージを覆す気持ちのいい空間

〈画像提供：狭山市〉

■おわりに

市の拠点にふさわしく整備された狭山市駅前には、官・民・交通が集約された利便性の高さと、景観に配慮した安全性と快適さを備えており、今後コンパクトシティ化実現に向けて取り組んでいかなければならない守谷市にとっても目指していくべき姿のひとつであると感じました。

スカイテラス・狭山市市民交流センター・産業労働センター・住宅地が弧を描くように美しい空中通路で結ばれており、駅前で生活の用をほぼ済ませられるように計画されていました。また、実際空中通路を歩いてみて、幅員も広く人と車が立体分離しているため、景観的にも素晴らしい通路であると感じました。当日は生憎の悪天候でしたが、小さな子供の手を引きながら赤ちゃんを抱いた方も、屋根付きの空中通路で安心して市民交流センターに向かう姿を拝見できました。歩行者を第一に考えつつ、駅前市営駐車場も整備していることで、積極的な鉄道利用（公共交通機関）を促している点も、これから求められる先進的なまちづくりの手本となるように思います。

また、「市民交流センター」がこの開発地区の核となっている印象を持ちました。証明書発行コーナーや子育て支援センター、公民館が入っているだけではなく、民間委託業者による「市民センター」がホールや音楽スタジオ、会議室を有料で貸し出ししているスペースがあることで、行政サービスで提供できる範囲を超えて、より市民交流を活性化させているようでした。この施設が駅から商業施設、公共施設、住宅地と空中通路で直結していることにより、狭山市の文化度と生活の豊かさをより高め、バランスのとれた駅前空間を創造していると感じました。

